

HIC 通信

Hiroshima International Center

Vol. 80
April 2013

今年度の当財団の活動方針について【交流部】

○多文化共生活動の推進に力を入れます。

特に、ボランティア育成・研修の強化を図ります。

- ・外国籍県民に対する市町の相談窓口との連携を強化しながら、市町担当者等への研修を通じた地域での取り組みを支援します。日本語ボランティアの育成、県内地域の交流団体との連携による多文化共生活動を推進します。



100 HIROSHIMAS

○グローバルな視点を持つ人材の育成を図ります。

- ・グローバル社会に呼応した国際人材や平和貢献に寄与する人材を育成するための講座開催や参加体験型学習などを実施します。



カンボジア スタディ ツアー

○外国人留学生の総合的な支援を行います。

- ・長年実施してきた留学生への奨学金支給事業に加え、「広島県留學生生活躍支援センター」を中核として、優秀な留学生の受入促進から、留学中の勉学・生活及び県内企業への就職までを総合的に支援します。



留学生合同企業説明会

当財団は、今年度から「公益財団法人」へ移行します。

この度、当財団は広島県知事から「公益財団法人」としての認定を受け、平成25年4月1日から「公益財団法人 ひろしま国際センター」に移行いたします。

今後は、公益財団法人として気持ちも新たに、広島県の国際交流・国際協力の推進に寄与してまいりたいと存じます。旧来のご支援に厚く感謝申し上げますとともに、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

◆目次

2面	交流部だより
7面	国際プラザニュース
8面	こちらJICAデスク
9面	サミット加盟団体だより

10面	Upcoming Events News
11面	Hello Hiroshima
12面	HICからのお知らせ 他

(公財)ひろしま国際センター 平成25年度の業務方針及び施策体系について

○平成25年度 施策体系

交流部の施策体系は下図のとおりです。

[交流部]

国際交流事業の推進

I 多文化共生社会 支援事業

1 外国人の住みやすい環 境づくりと交流促進

- ① 外国人相談窓口運営等事業
 - ・外国人相談窓口の設置
 - ・市町等が企画する講演会・研修会等の支援
 - ・市町等担当者研修
- ② 日本語学習支援事業
 - ・日本語ボランティア支援
 - ・HICワンペア日本語学習
- ③ 多文化共生ボランティア事業
- ④ 情報提供事業
 - ・機関誌発行 (HIC通信)
 - ・ひろしま国際情報ネットワーク (HINT)運営

2 国際理解・多文化理解の 促進

- ⑤ 多文化共生シンポジウム開催等事業
- ⑥ 日本文化理解促進事業

3 国際交流団体等との情報 交換・ネットワークづくり

- ⑦ ひろしま国際交流サミット運営事業

II 平和貢献推進・国際 人材育成事業

1 国際協力やNGO活動に 関する理解促進

- ① 平和貢献人材育成事業
 - ・カンボジア・スタディツアー実施
 - ・「国際交流・協力の日」開催

2 国際理解の促進 リーダー的人材の育成

- ② 国際人材養成講座「ひろしまグローバル人材養成講座」
開催事業

III 留学生支援事業

1 生活・就職等支援

- ① 留学生奨学金支給事業
 - ・センター留学生奨学金支給
 - ・企業等協力留学生奨学金支給
 - ・県民支援留学生奨学金支給
- ② 県内文化施設等優待事業
- ③ 留学生住宅情報提供事業
 - ・民間宿舎情報提供事業
 - ・留学生住宅保証事業
- ④ 留学生就職支援事業
 - ・体系的就職セミナー開催事業
 - ・インターンシップ事業
 - ・就職活動個別コンサルタント事業
 - ・留学生活用セミナー開催、交流サロン事業
 - ・留学生企業説明会事業
- ⑤ 就活(実用)日本語研修事業

2 受入促進

- ⑥ 留学生受入促進事業
 - ・海外共同PR事業
 - ・留学促進広報資料作成事業
 - ・進学説明会事業

3 情報提供等

- ⑦ 留学情報等提供事業
 - ・留学生ウェブサイト事業
 - ・留学生交流事業

世界の誰かが住みやすい『まち』について語り合おう 100人ワークショップ『100 HIROSHIMAS』の開催!!

2月23日（土）に、NPO法人ひろしまジン大学との共催で、100人ワークショップ『100 HIROSHIMAS』を開催しました。世界の誰かが住みやすい『まち』にするために、参加者の皆さんで意見やアイデアを出し合うことで、多文化共生への理解を深めることを目的としています。当日は、世代、性別、国籍もさまざまな107名もの方々に参加していただきました。

ひろしまジン大学の平尾順平学長の進行のもと、「世界の誰かが住みやすい『まち』ってどんなまち？」というテーマで、5人1組で会話を行いました。カラフルなペンで模造紙に絵やキーワードを自由に書きながら、途中グループをシャッフルして、できるだけ多くの方と会話をしていきます（写真①）。会場も徐々に賑わっていき、各グループでは色鮮やかな模造紙が出来上がっていました。

休憩明けの後半は、参加者全員が輪になった状態でスタート（写真②）。「世界の誰かが住みやすい『まち』にするために」具体的な提案をしたいという方は、輪の真ん中で1分間のプレゼンテーションを行います（写真③）。ここでは、参加者107名の内、23名もの方々からさまざまな提案がありました。ひととおり提案が終わったあと、提案者以外の参加者は、それぞれ興味のある提案に参加していき、自由に議論していきます（写真④）。会議が始まるとすぐに活発な意見交換が行われ、なかにはグループを更に細分化して議論してみたり、昔の遊びを取り入れながら議論をするグループ等もあり、その自由な発想から様々なアイデアが生まれていました。

また、色んなグループを歩き回って議論に参加する方や、ひとつのグループに留まって議論を深める方などさまざまで、会場はものすごい熱気に包まれていました。

最後に参加者全員での記念撮影とアンケートにご協力いただき、閉会となりました。閉会後も、参加者同士で連絡先を交換したりするなど、多くの方が残っておられました。

今回、このワークショップを通じて、皆さまからさまざまなご意見やアイデアをお聞きすることができました。ひろしま国際センターとしましても、ここで出たご意見やアイデアを参考にさせていただき、世界の誰かが住みやすい『ひろしま』づくりに寄与していきたいと思えます。

また、このワークショップには、前年度8月から1月にかけて当センターが実施した「ひろしまグローバル人材養成講座」の受講生も数名参加し、講座で学んだ知識やスキルを活かしていました。今後も地域との交流やNGO活動を推進し世界とひろしまをつなぐリーダー的人材として活躍されることを願っています。

皆さんがここで出会い、語り、つながったことで、世界の誰かが住みやすい『ひろしま』にしようという多くの活動が生み出されることを期待しております。

（※イベントの詳細は当センターHPに公開しております）



写真①



写真②



写真③



写真④

カンボジア・スタディツアー 報告

平成25年2月17日(日)～24日(日)の6泊8日で、ひろしま国際センターとJICA中国国際センターとの共催による「カンボジア・スタディツアー」に同行しました。広島県内の若者を対象に将来の国際協力や平和貢献を担う人材育成を目的としたツアーも今回で9回目となりました。ツアーには広島県内の大学生16名(男性5名、女性11名)と高校生1名(女性)の計17名が参加されました。カンボジアの復興にはJICAや広島県、NGO団体が支援をしており、その活動現場を訪問しました。

ツアー前半は、「JICAカンボジア事務所」、青年海外協力隊員が派遣されている「プレイベン州教員養成学校」とシニア海外ボランティアが派遣されている「国立小児病院」を訪れ、ボランティア活動に対する熱意や課題についてお話いただきました。将来、青年海外協力隊員や海外で活躍することを希望している参加者もいて、お話しいただいた内容は自分が今後どのように生きていくのか、大変参考になったことと思います。

後半は、シェムリアップへ移動し、クメール伝統織物研究所、アンコール大学等を訪れ、視察先でご活躍されている日本人の方から人生を成功させる上で必要なことについて熱く語っていただきました。ササースダム中核小学校では、児童たちとサッカーや手を繋いで一緒に歌を歌うなど、言葉はあまり通じないものの、児童たちのキラキラした目とその笑顔にとっても癒されました。児童宅訪問では、日本とは違う現状に正直衝撃を覚えつつも、児童の将来への夢や希望を聞き、どんなに貧しくても毎日を必死に生き抜こうとしている気持ちがとても伝わり、私たち日本人が失っているかもしれない「心の豊かさ」を持っているなど、しみじみ感じさせられました。



ササースダム中核小学校の児童たち

今回のツアーは私にとって、様々な意味において大変考えさせられた6泊8日となりました。私たちが日本国内での日常生活において当然だと思っていること、そして何より平和であることの有難みを強く感じました。現在カンボジアの経済成長率は6%を維持しており、町や人には活気が溢れています。5年後または10年後に訪問することがあれば、もっと違うカンボジアを見ることができでしょう。私も今回のツアーでカンボジアから学ばせてもらったことを、これからの生活にどのように活かしていくか、じっくり腰を据えて考えて行きたいと思います。

最後に、カンボジア・スタディツアーの実施にあたり、ご尽力くださいました多くの関係者の方々に心より御礼申し上げます。(大藤)

留学生活躍支援センターの新たな取り組み

・就職支援専任職員による留学生の就職指導・相談

学部3年次の冬から始まる企業の求人活動に合わせて開始する就職活動個別コンサルタントを、外部のキャリアコンサルタントに委託して実施してきましたが、今年度からは、当センターでこれまで蓄積してきた企業や留学生のデーターをより効果的に活用し、留学生と企業とのマッチングを進めるため、専任の就職支援担当スタッフを増員して、直接、留学生の就職指導・相談を行うことにしています。



企業スタッフと留学生の交流会

・企業／留学生交流サロンの開催

留学生の採用経験がない企業の経営者や採用担当者に、留学生の実態を理解してもらい、留学生の良さを認識してもらえる機会を増やし、インターンシップを受け入れる企業数の増加や、留学生を採用する企業数の拡大につなげるため、企業／留学生交流サロンを開催し、企業人と留学生が気軽な交流をできるよう、交流会を年6回開催することにしています。

上記の新たな取り組みにより、留学生を受け入れる企業の新規参入が増加し、留学生の就職できる業種や職場が増えて、就職者数の増加につながるよう努力してまいりますので、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。(空)

ボランティア育成講座「災害時の外国人に知らせることば」を開催

12月16日(日)当センター交流サロンにて、日本語学習支援ボランティアと通訳ボランティアの合同研修として開催しました。当日は地元サッカーチーム“サンフレッチェ”の優勝パレードがありました。34名もの参加者が集まりました。参加者は、日頃から業務で関わりの深い行政や国際交流・教育関係者が目立つものとなりました。第1部は、弘前大学大学院教授 佐藤和之 講師から外国人住民の安全を守り安心を提供する情報伝達手段として「やさしい日本語」で伝えるという考え方について説明いただき、第2部では多文化共生マネージャー全国協議会の副代表理事 高木 和彦講師に、「災害時に外国人が直面する課題とサポーターに求められる役割」について説明いただきました。両講師とも東日本大震災での活動経験があり、より具体的で有益な情報を勉強する貴重な機会となりました。(野口)



弘前大学大学院教授
佐藤和之講師



多文化共生マネージャー
全国協議会副代表理事 高木和彦講師



階下ではサンフレッチェ
優勝パレード



休憩時間にパレードを見下ろす
参加者たち

多文化共生シンポジウム ～事例に学ぶ、多文化共生の地域づくり～ 開催

2月9日(土)、「多文化共生」についての理解促進を図るシンポジウムを開催しました。今回は、特に事例紹介や外国人住民の意見を通じて多文化共生を考えていただくもので、131名の方に参加いただきました。

第1部基調講演では、NPO法人多文化共生センター大阪の田村太郎代表理事より、岐阜県美濃加茂市や愛知県等全国の先進的な取り組みや外国人住民が主体となり地域経済を盛りあげている様子が紹介されました。

第2部パネルディスカッションでは、人口構成の若年化のために多文化共生を推進し外国人住民の定住促進を図る安芸高田市の多文化共生推進員である明木一悦さん、福山市で多言語放送のディレクターを務め、NPOの立場で行政と大学、地域と連携して多文化共生に係る村田民雄さん、呉市教育委員会が開催する日本語教室《呉》を運営するひまわり21副代表の伊藤美智代さんより、各々の活動をご紹介いただき、日本人視点の支援ではなく、外国人住民が主体的に責任ある立場で物事に取り組むことを側面支援することの重要性等が語られました。また、HIC専門相談員の服部居宣さん及び広島県国際交流員のギョーム・ラモテさんは、広島が自身の母国と同様の故郷であることや、外国人住民の立場から自身の経験談を通じ、思い込みによる一方的な親切ではなく、先ず相手の話を聞き、個の存在として尊重する大切さ等が語られました。

シンポジウムには、幅広い年齢層、職種、そして留学生等の外国人住民にもお集まりいただき、質疑応答やアンケートでは感想とともに貴重なご意見をいただきました。(地主)



「雪生活体験」を開催

2月3日(日)、「雪生活体験」を美和東ふるさと振興協議会、北広島町、北広島町女性会美和東支部と共催で開催しました。多数の応募より選ばれた12カ国49名の在広外国人に参加いただき、北広島町溝口地区の方々と交流を深めました。

当日は雪が少なかったのですが、前日からの地元の方の尽力により、参加者は思う存分雪遊びを楽しむことができたようです。また、地元料理と外国料理を囲んだ交流会や地元芸能、外国人による母国紹介も実施しました。

交流会では、外国人参加者の中から、チェダウサン(ベトナム)、チキンスープ(ベトナム)、チンジャオロース(中国)、ごま油そうめん(台湾)などのお国料理をふるまっていただきました。

外国人の方には、写真を交えて母国紹介を披露していただきました。

また、地元の方々による踊りと神楽は、外国人の方たちにとって大変興味深かったようで、その美しい舞と迫力のある演技に魅入っていました。最後にフォークダンスを全員で踊ることで、地元溝口地区の方々にも外国の方との交流を深めることができました。(河内)



全員で記念撮影

～ H I C外国人相談窓口 専門相談員紹介 ～

HICは広島県内で暮らす外国人の皆様が、安心して暮らしていただけるよう「外国人相談窓口」を開設しています。この窓口では、在留資格や社会保険・労働問題などの専門的な相談や暮らしに関する相談を、フィリピン語・英語・韓国語の3カ国語で提供しています。71号(平成23年1月1日発行)より、窓口で相談業務に携わる専門相談員の方々をご紹介しますが、今回は第8弾をお届けします。



外国人相談窓口

【相談体制】平成25年4月1日から変更になります。

相談時間 (木) 10:00～12:00, 13:00～16:00

(専門分野)

在留資格(ビザ他), 社会保険, 労働問題

(通訳)

・フィリピン語・英語

・韓国語

フリーダイヤル 0120-783-806
携帯電話からは 082-541-3888 (直通)

①名前(ふりがな): 野村 真嗣 (のむら しんじ) / 国籍: 日本

②専門分野: ビザ・永住・帰化など
資格 : 行政書士

③専門分野に取り組んだきっかけ

開業当初から興味のある分野で本を読む程度のことはしていました。しかし、実際に外国人の方のお話を聞いたり、切実な表情を見たりして、日本での生活を大きく左右する“在留資格(ビザ他)の重要性”がどれほどのものかを目の当たりにし、“私にもサポートできることはないか”と思い、さらに深く取り組んでいきたいと考えるようになりました。

④専門相談受付日時・相談内容

<担当日は不定期>

毎週木曜日 10:00～12:00, 13:00～16:00

毎週土曜日 9:30～12:30

相談内容

ビザ・永住・帰化など

⑤ ひと言

昨年の7月から新しい在留制度がスタートしています。

どんな些細なことでも結構です。少しでも不安に思われていることがあれば、お気軽にご相談ください。少しでも皆様のお役に立てればと思っています。



～ H I C外国人相談窓口について ～

平成25年4月1日より、外国人相談窓口の相談体制が変更となります。

○専門相談日が(火), (木), (土)の週3回から(木)の週1回となります。

○通訳はフィリピン語, 英語, 韓国語の3カ国語のみとなります。

ワールドクッキング教室受講者 募集中

世界の料理や文化を気軽に体験することができるワールドクッキング教室は、平成25年度前期の受講者を募集中です。教室は月1回で、火曜日クラスと木曜日クラスがあります。料金は5回で7,500円、時間は10時～14時です。興味のある方は是非、お問い合わせください。(定員各クラス20名)

【参考～前期開催予定日】

平成24年12月はインド料理でした→

	第1回 5月	第2回 6月	第3回 7月	第4回 8月	第5回 9月
日 程	21(火),30(木)	18(火),27(木)	9(火),18(木)	20(火),29(木)	10(火),19(木)

前期の料理は、コロンビア料理、バングラディッシュ料理、モザンビーク料理等を予定しています。
*日程や料理の予定は、事情により変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。



【イベント報告】世界まると体験デー開催

平成25年2月2日(土)、東広島市のひろしま国際プラザで世界まると体験デーが開催されました。「遊び」を通して日本や世界の文化を紹介し、それを体験してもらうことで国際理解を深めてもらおうというイベントです。3回目となる今回も盛りだくさんの内容で開催され、日本人、外国人合わせて約650名の方が参加し、イベントを楽しみました。

ピニャタ…メキシコのくす玉割りです。中にお菓子や小さなおもちゃを入れてロープでつるし、子供達が歌を歌いながら順番に棒でたたいて割り、中のお菓子を手に入れるという遊びです。



ユンノリ…韓国のすごろくです。韓国ではお正月など人が集まる時によくユンノリで盛り上がるそうです。

チェギ…韓国のチェギは日本の蹴鞠のような遊びです。足で蹴り合ったり、サッカーのリフティングのように数を競います。



手作りサッカーボール…世界には、サッカーがしたくてもボールが買えなくて、スーパーのレジ袋などでボールを作り遊んでいる子供がたくさんいます。そんな現状を知ってほしくて作ったブースです。



世界旅行ゲーム…日本を含む世界8カ国についてのクイズ。景品はその国の国旗の缶バッジです。

このほかにもレストランでは8カ国の料理のビュッフェ。ステージでは銭太鼓や日本の童謡、メキシコのダンスの披露。その他フリーマーケットの開催、けん玉や日本の遊びの体験、民族衣装や浴衣の試着などもありました。

1日でこんなにたくさんの遊びや文化を体験できるイベントはなかなかないのではないのでしょうか？



世界まると体験デーは年2回開催されます。みなさんも是非参加して、世界の文化に触れてみませんか？ 世界が広がること間違いなしですよ！



★お申込み・問合せ先

公益財団法人ひろしま国際センター研修部

〒739-0046 東広島市鏡山三丁目3-1 ひろしま国際プラザ内

(電話082-421-5900 FAX082-421-5751)

・事務室開室時間 月～金 9:00～18:00

・情報センター・図書室開室時間 毎日 10:30～19:00 (平日13:30～14:30は閉室)

URL: <http://hiroshima-ic.or.jp/hip/>

E-mail: hicc@hiroshima-ic.or.jp (事務室), hiccinfo@hiroshima-ic.or.jp (図書室)



広島から世界へ！ 3月下旬より、広島県出身の青年海外協力隊員2人がバングラデシュ・ペルーの2カ国へ向けて出発します！



《青年海外協力隊》（※左から氏名・派遣国・職種）

藤本 貴久 バングラデシュ 村落開発普及員
三好 佑生 ペルー 環境教育

※昭和40年から平成25年2月末までの、広島県出身
青年海外協力隊派遣累計・・・ 837人

現在赴任中の広島県出身 JICAボランティア(人)

区 分	男性	女性	合計
青年海外協力隊	13	17	30
シニア海外ボランティア	18	0	18
日系社会青年ボランティア	0	0	0
日系社会シニアボランティア	0	2	2

平成25年2月28日時点

広島県JICAデスクの2年目を振り返って

JICA国際協力推進員（広島県担当） 大塚善久
（平成18年度 マラウイ派遣 村落開発普及員）

ムリヴァンジーノンセ？（みなさん、お元気ですか？）昨年度発行のHIC通信76号で、広島県JICAデスクの1年目を振り返って
から、早いもので1年。私のシーズン2も終わろうとしています。しかし、私の大好きな春が音を立てて近づき、桜の咲くのが待ち
遠くなる今日この頃です。

2年目となる今年度は、忙しくも充実した1年を過ごすことができました。何ととっても今年度は「国際協力出前講座」が、昨年
度をはるかに上回る件数でご依頼いただき、私も広島県内各地の学校や国際交流団体様、民間企業様などを訪問させていただきま
した。もちろん、広島県在住の協力隊OBにも講師を依頼し、各地で体験談や国際理解ワークショップなどに取り組みました。やは
り、JICAボランティア経験者が最も輝ける瞬間は、目の前の方々に、途上国での生活や活動をしていた時の話や、自分のメッセー
ジを言葉で伝えている瞬間なのだと思います。また、春と秋に行っている年2回のJICAボランティア募集説明会でも、沢山のの方
々に、青年海外協力隊をはじめとするJICAボランティア事業にさらに興味を持っていただけたと思っています。「大塚さんの体験談
を聞いて、青年海外協力隊に応募して合格しました」こう言ってもらえた瞬間の喜びは、なかなか文章では表現できません。

また、今年度も実施しました！「カンボジア・スタディツアー」
今年は、大学生16名と高校生1名の計17名が参加してくれました。
2/17(日)～24(日)の6泊8日で実施したこのツアーは、ここでは
書ききれないほど盛りだくさん。まさに「笑いあり」「涙あり」
「感動あり」の充実したツアーとなりました。
参加者の学生たちからの「このツアーに参加して本当に良かった」
この一言が最高に嬉しい瞬間です。

これからは、それぞれの大学生活、長い人生の中で、このツアーでの
成果が何らかの形で生きてくれれば、私も幸せです。

この1年を通じて、改めて思いました。「挑戦無くして学びなし」
3年目も、坊主頭は全力投球で「感動」させていただきます！！



アンコールワットをバックに記念撮影

【JICAボランティア体験談&説明会のお知らせ】

平成25年度春募集「体験談&説明会」を、広島県では3ヶ所の会場で合計4回開催します。広島市内では、
「広島市まちづくり市民交流プラザ」にて計2回、広島市以外では東広島市の「広島大学学生会館（青年海
外協力隊のみ開催）」で1回、福山市の「まなびの館ローズコム」で1回の開催となります。青年海外協力隊・
シニア海外ボランティアの制度説明に加え、経験者の体験談も実施しますので、たくさんのご来場をお待ち
しています。詳しくは、JICA中国のウェブサイトからご確認下さい。

<http://www.jica.go.jp/chugoku/enterprise/volunteer/setsumei/jocv.html>

広島県JICAデスク大塚

トルコ・チャナッカレの会とは

本会は、ひろしま国際センター設立10周年を記念して、1998（平成10）年10月に国際理解訪問団（越智正紀団長：団員28人）が、アジアの最西端トルコ共和国を訪問したことが、設立の契機になっています。

訪問団は、広いアジアを実感し歴史を刻んだ遺跡に触れ、チャナッカレ3月18日大学日本語教育学科では、日本語を学ぶ学生達と交流しました。

帰国後の1999（平成11）年1月に訪問団の有志によって、同大学日本語教育学科との交流を通じ、トルコとの国際親善に寄与することを目的とした「トルコ・チャナッカレの会」が設立されました。

現在、大学の正式名は、チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学です。「オンセキズ・マルト」がトルコ語で「3月18日」を意味します。

具体的な活動として

毎年、同大学日本語教育学科の学生の中から成績優秀者が松下幸之助記念財団助成による「日本語・日本文化研修旅行」で来日し、ひろしま国際センターで日本語研修・日本文化体験・ホームステイなどを実施しています。本会は、その来日した学生の歓迎交流会を1999（平成11）年から広島で開催しています。学生たちの日本語学習歴は、3年間ですが、日本語が大変上手です。

また、日本のカレンダーを集め、大学に寄贈しています。大学では、日本デー等のイベントで展示し、来場者に抽選で配布しているとのこと。

なお、不定期ですが、トルコからの留学生等と茶話会を開催し、交流しています。

本会では、2013（平成25）年11月上旬のトルコ旅行を計画しています。

お問い合わせ先など

会長 越智正紀 事務局長 畑谷勝彦

会員数 37名（2012年12月現在） 年会費 3,000円

事務局 広島市中区八丁堀6-11 グレイスビル806号 Office hatatani(株)内

TEL:082-962-1330 FAX:082-962-1331 e-mail: t.canakkale@gmail.com

※入会を希望される方は、事務局まで、ご連絡（電子メール可）ください。

チャナッカレはトルコ北西部に位置する人口約75,000人の都市で、トロイ遺跡が近くにあります。



2012年の歓迎会



Upcoming Events News No.124

平成25(2013)年5月分

※それぞれの会員限定のものもあります。主催者にお問い合わせ下さい。

日	内 容
12日 (日)	『縮景園茶摘茶会』 古くは八十八夜に広島藩・浅野家の伝統行事として行われていた茶摘行事を再現し、一心一葉の新茶を摘み取り、蒸して揉む作業を行い、新茶と抹茶で伝統文化に親しむお茶会を開催します。 時 間 10:00～15:00 (受付時間) 場 所 広島県縮景園 参加費 600円 (別途入園料が必要) 問合先 上田流和風会 担当者 佐々木育生 (事務局長) TEL: 082-271-5307

平成25(2013)年6月分

日	内 容
9日 (日)	『縮景園田植茶会』 五穀豊穡を祈願して、古くから行われている田植行事を再現して、併せて茶会を開催し、日本の伝統文化に親しむ行事を開催します。新庄郷土芸術保存会による「新庄のはやし田」「南条おどり」の披露と、上田宗箇流青年部の早乙女による田植えが行われます。田植の風物詩といえば早乙女。現在では目にする機会が少なくなった昔ながらの風景、花田植が披露されます。 時 間 10:00～15:00 (受付時間) 場 所 広島県縮景園 参加費 700円 (別途入園料が必要) 問合先 上田宗箇流和風会 担当者 佐々木育生 (事務局長) TEL: 082-271-5307

国際交流団体からのお知らせ

日	内 容
随 時	お分けします! (インターナショナルクラブ) 「カンボジア教育文化交流プロジェクト」のために集まった文具をお分けします。インターナショナルクラブでは、廿日市国際交流協会の協力で、不要になった文具類を集めています。先日、中国新聞や地方紙(西広島タイムス)で呼びかけたところ、予想外に、とても多くの文具を皆様からいただきました。とても私たちだけでは、はかせられないので、東南アジアやその他発展途上国に行かれる方や団体にお分けしたいと思います。使いかけのものもありますが、鉛筆類1,500本 ノート300冊 ファイル90部 色鉛筆70組 ものさし60本 グローブやバットその他です。引き取りを希望される方は、下記までご連絡ください。 場 所 廿日市国際交流協会(廿日市市住吉2-2-16) TEL: 0829-20-0116 この記事の問合先はインターナショナルクラブ 坂平 迄 TEL: 080-3052-5840

交流部 事業報告 第1期「ひろしまグローバル人材養成講座」終了!

昨年8月にスタートした「ひろしまグローバル人材養成講座」が1月13日(日)で最終回を迎え、第1期生が卒業しました。学生、留学生、社会人という多様な構成メンバー同志が毎回グループワークを通してお互いの価値観を共有することを重ねる中で、最初はぎこちない印象だった受講生も、最終回では活き活きと積極的になったように思います。「他人と価値観を共有することがこんなにも楽しいことだとは思わなかった。」「もっといろんなテーマで意見を出し合ってみたい。」「もっとたくさんの学生や社会人の方を巻き込んでいきたい。」などの声が聞かれ、これから世界とひろしまをつなぐ人材として社会で活躍され続けることを祈っています。(佐藤)



By Guillaume Lamothe

レスリングがオリンピックから無くなった!

Today, I'd like to get something about the Olympics off my chest. You see, I was watching a TV show the other day, and the panelists, all grizzled old men (with pretty young girl thrown in to provide eye candy), spent the better part of 15 minutes hollering about a conspiracy by the International Olympic Committee (IOC) to ensure that Japan doesn't win too many medals. This was not long after wrestling had been removed as one of the 25 "core" Olympic sports. "Removing wrestling is pure racism," one particularly agitated commentator shouted; "Europe doesn't like having 'yellow monkeys' win medals, so they just change the rules!" Afterwards, to show that other sports were affected as well, an "expert" was brought in to "demonstrate" how, throughout Olympic history, rule changes had consistently been made in a wide variety of sports to disadvantage the "physically smaller, less strong" Japanese players.

Now, normally I would dismiss this argument as just the misplaced victim complex of a few old men who still can't fully embrace an increasingly interconnected and globalized world. However, I had already heard very similar arguments from several of my Japanese friends and colleagues a few days before watching this show. This leads me to believe that this kind of sentiment is more prevalent in Japan than I would have believed.

To be clear, I am against the IOC decision to get rid of wrestling, for several reasons. But was this decision really aimed at Japan, to prevent it from gaining more medals? Even a cursory look at the facts should clearly tell us that this is not so, simply because, to state things as clearly as possible, Japan is far from being the country most affected by wrestling's removal from the Olympics.

Indeed, although Japan has been doing very well at wrestling recently, winning 6 medals each in the 2004, 2008, and 2012 Olympics, it not at all the dominant nation in that sport: that would be Russia, which has won 10+ medals at every Olympic Games since 2004. What's more, when compared with sports such as swimming or judo, wrestling is not even a very important sport for Japan in the overall scheme of things, especially not when compared with other countries. While wrestling only accounted for 6 of Japan's 38 medals (15.7%) in London, the sport gave tiny Georgia a full 85% of its medals (6 out of 7), Azerbaijan 70% of its medals (7 out of 10), and Kazakhstan 23% (3 out of 13) of its medals.

There is no question, that wrestling is much more important to the Olympic aspirations of Eastern European and ex-Soviet bloc countries than it is to Japan's. Just recently, the Bulgarian wrestling coach Armen Nazaryan even began a hunger strike to protest the sport's Olympic removal. Whether or not this is a good strategy, it should nonetheless be indicative of the fact that the level of vitriol being hurled at the IOC is much more heated in that part of the world than it is here in Japan.

Clearly, people here are being too "Japan-centric" in their approach to the problem. Instead of ridiculously lambasting the IOC's terrible decision to get rid of wrestling as "racism" and an attack on the Japanese Olympic dream, Japanese people should instead look beyond their own country and engage with the wrestlers and fans in other affected countries, in order to better contribute to the international coalition currently trying to pressure the IOC into restoring wrestling to its rightful place in the Olympic pantheon.



Hiroshima Calendar

Editor's notes:

Sometimes, I have to really search around for suitably big festivals to recommend, but not now! Rather, I feel bad that I wasn't able to include all of the fun festivals that take place in Hiroshima at this time of year. Who says deep Summer is festival season? If you're in the mood, definitely check out the Onomichi and Kure Port Festivals at the end of April – a lot of fun! And as always, if you have any questions or comments, please email me at hic05@hiroshima-ic.or.jp

Date	Event	Location
<u>April</u>		
15th	Daishoin Hot Coal Festival – Step on hot coals and see how well you do!	Miyajima – Daishoin Temple
29th	Kintaikyo Bridge Festival – Annual festival to celebrate the beautiful bridge.	Iwakuni – on the Kintaikyo bridge (duh!)
<u>May</u>		
3rd-5th	Hiroshima Flower Festival – The biggest annual festival in Hiroshima City!	All along the Peace Boulevard
18th-19th	Fukuyama Rose Festival – The whole town is filled with stalls and a flowery, laid back atmosphere.	Fukuyama City – All across town!
<u>June</u>		
7th-9th	Toukasan Yukata Festival – Go around town looking spiffy in your yukata!	Toukasan Temple – Hiroshima City
April 19th – May 12th	National Confectionary Exhibition in Hiroshima – The largest exhibition of sweets in Japan; only held once every 4 years!	The site of the old baseball stadium, close to the Peace Park

HIC交流部からのお知らせ

■HIC日本語教室について■

長い間ひろしま国際センターの日本語教室として歩んできましたが、平成25年4月より以下のとおり自主運営教室として生まれ変わりました。

教室	場所	開催曜日・時間	連絡先
ひろしま日本語教室	ひろしま国際センター	土曜日 10:00~12:00 (8月お休み)	090-1339-1454 (光原) Email: suzue0524@yahoo.co.jp ホームページ: http://hiroshima-nihongo.blogspot.jp/
日本語教室ピース	ひろしま国際センター	土曜日 13:00~15:00 (8,9,3月お休み)	080-6963-1270 (岩井) Email: h.ninjapanese.peace@gmail.com Facebook: http://www.facebook.com/groups/192497674187433/

※火曜日夜クラスは、平成25年3月を持って終了いたしました。

※詳細については各教室の連絡先へお問い合わせください。



〒730-0037
広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6階
Crystal Plaza 6F, 8-18 Nakamachi, Naka-ku, Hiroshima 730-0037, Japan

ご質問・ご意見などご遠慮なくお寄せください

Any questions, suggestions, and criticism regarding HIC Tsushin can be addressed to:

TEL: (082)541-3777 FAX: (082)243-2001
URL (Japanese) <http://hiroshima-ic.or.jp/>
(English) <http://hiroshima-ic.or.jp/hice>
E-mail: hic@hiroshima-ic.or.jp

